プログラム

主催

東京學生アメリカン・フットボール聯盟

第一回感謝祭

アメリカン・フットボール試合

横濱カントリー・アスレチック・クラブ

對

全東京學生選抜軍チーム

早稲田——明治——立教三大學選手

於・東京・明治神宮競技場

昭和九年十一月二十九日

東京學生アメリカン・フットボール聯盟

加盟チーム

早稲田大學
明治大學
立教大學

昭和九[illegible]十六日設立

米國アメリカン・[illegible]を日本に紹介し、米國秋期シリーズに於ける同様米國アメリカン・學生・アスレチック・協會規定フットボール・ルールに從ひ、試合を行ふ目的の下にこの聯盟が設立せられたので毎年十月・十一月及び十二月の三箇月を[illegible]定期試合シーズンとす

聯盟役員氏名

委員長	立教大學教授	ポール・ラッシュ氏
	明治大學教授	松本瀧藏氏
	立教大學教授	ジョージ・マーシャル氏
	早稲田大學教授	中島太郎氏
學生委員	早稲田大學學生	竹崎道雄氏
	早稲田大學學生	藤田一郎氏
	早稲田大學學生	井上素行氏
	早稲田大學學生	吉岡武男氏
	明治大學學生	山田忠雄氏
	明治大學學生	半田明氏
	立教大學學生	穎川四郎氏
	立教大學學生	太田二男氏
	立教大學學生	相原徹夫氏

聯盟假事務所

東京市豐島區池袋立教大學五號館

アメリカン・フツトボール・ゲームに關して。

歷史を通じ過去をかへり見るならば我々は其處に何等かのゲームが行はれてゐる事を發見する。

文明社會に於いてはその社會人の體育の爲、何等かのスポーツが必要なりし事を認めて來てゐる。

幾世紀間の長年月を經て漸時此等のゲーム（競技）は改良され發達して來たのである。然して今日我々は最も高尙に發達したるチームゲム（團體競技）の幾多を持つに至つたのである。此等の團體競技は多數の人々の間に成長發展し、今日に於いては各種スポーツの良き團體競技を見るべく雲集する觀衆を見るに至つた。

米國に於いては特に興味あるフツト・ボール試合が演じられる時には遠隔の地より多くの人々がその試合を見んと參集するのである。

幾萬人を收容する幾多の大競技場はフツトボール試合が擧行さるる毎に滿たされ、米國に於けるフツトボール試合は一偉觀を呈するのである。觀衆のあふれたる大競技場（スタジアム）——大音樂隊——應援團——そして生命を賭しても戰はんとする二十二名の鬪志に燃ゆるプレヤー——これは誰もが一度は見んと欲する大スペクタクルの一である。一八七三年以來米國に於いてはこのフツトボール・ゲームは大學生活とは切り離し得ない最も人々の熱狂するものであつた。このゲームの初期は單に膂力に訴へるが如き最も危險なる、又亂暴極まるゲームであつた。然し乍ら漸時、幾多の改良が加へられ、ルールの變遷を見て其のプレーヤーの安全性を確保するに至つたのである。

フオアーワード・パス（Forward Pass）（前投）及レーテラル・パス（Lateral Pass）（ラグビーのパスと同樣、橫或は後投）が用ひられ、又安全なる試合用具が使用さるるに及んで他競技と同樣決してラフ（亂暴）な危險なものではなくなつたのである。

アメリカン・フツトボールは勿論困難な又スピーディーなゲームではあるが人々が信ずるが如き程危險にして荒いゲームでは決してない。

プレーヤーが時々甚い負傷を受けるといふ事は度々聞く事ではあるが、之れは何ずれのスポーツに於いても又聞かれる事である。

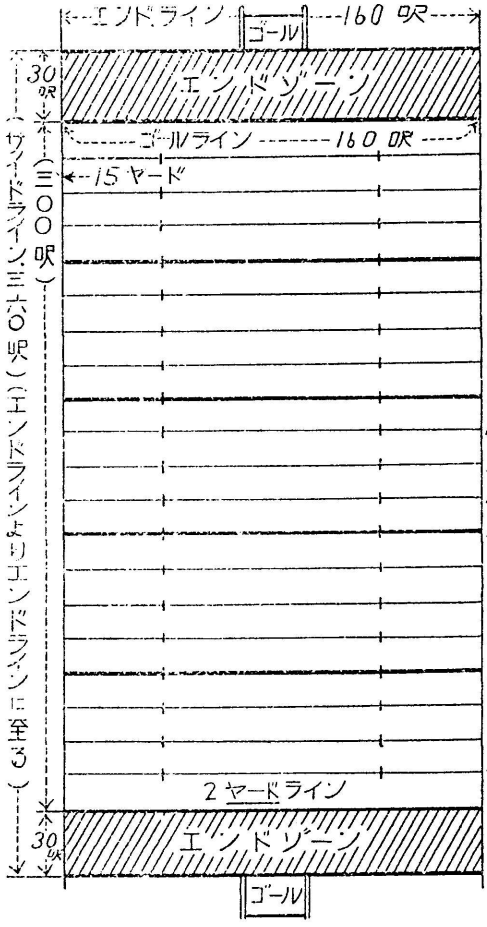
アメリカン・フツトボール・ゲームは其の者に於いては英國ラグビー・ゲームより發展したものである。然し乍ら多くの變改が與へられ今日ではラグビーゲームの唯片鱗をのみ殘すに至つた。

アメリカン・フツトボール・ゲームに關する大略の說明

1. フィールドは横百六十呎、縱三百六十呎の長さである。

ゴール・ポスト(Goal Posts)は最端線（エンド・ライン）(End line)上にある。ゴール、ラインより十ヤードの地點にある。ゴール・ラインよりエンド・ラインに至るゾーン(地帶)をエンド・ゾーンと呼んでゐる。

兩エンド・ゾーンに挾まれてゐるフィールドは五ヤード毎にゴールラインと平行にラインが引かれてゐる。（右圖參照）



2. 使用ボールはラグビーボールよりは小さいのが用ひられる。

3. 試合開始は攻撃側四十ヤードラインより防禦側フィールドに向ひ眞直ぐに蹴られる（キツク、オフ）事により始められる。若し眞直ぐ蹴られずサイドライン外にそれた場合は、もう一度蹴り直さねばならぬ。又若し二度目も外ずれた場合には對手側に球は移され、對手側が四十ヤードラインよりキツクオフにて試合開始す。

4. 試合時間は六十分間であり、四クオーターズ（十五分

間毎四回)に分けられ、各十五分間のゲーム・タイムとなり。十五分間の試合後一分間のインターミッション(休憩時)が與へられ、ハーフ・タイム(第二、第三クオーター間)には十五分間のインターミッションが與へられる。

5. サブスチチューション(補缺選手)は幾人にても出場せしめ得る。各クオーターに選手の變換をなし得る。

6. チームは十一名より成る卽ち七名のラインズメン(フォアワード・メン)及四名のバックフィルドメンである。又このバックフィルドメンは二名のハーフ・バック、一名のフル・バック、及び一名のクォーターバックに別けられる。

ラインズメン(フォアワードメン)の構成は次の如し。

①エンド　②タックル　③ガード　④センター　③ガード　②タックル　①エンド

バックフィルドメンは

クォーターバック

ハーフバック　フルバック　ハーフバック

他の異なれるフォーメーションも用ひられる。然し乍ら試合が開始されると如何なる時にもチームは少なくともスクリムメージのライン(スクラムライン)(ラインズメン)には七名を置かねばならぬ。

7. 一チームはボールを十ヤード進めるため四つのダウンズ(Four downs)(四度プレイする意)をなす權利がある。然し四ダウンズ中に十ヤード進む事に失敗せる時にはボールは對手側に行き、對手側の權利となる。

8. スクリメージ(スクラム)によりボールが入れられプレイに移る。

センターはボールをバックフィールドにパスする、兩チームのどのプレーヤーも、攻撃側のセンターのみをのぞき球がパスされる前にその球より先に出る事は出來ない。

9. 攻撃チーム側に於いては、ボールを持つてゐる。プレーヤーのみクックルを外す爲に手を用ひる事が出來る。

攻撃チーム側の他のプレーヤーは共の肩或は身體を防禦チーム側プレーヤーのブロッキング(つぶし)に用ひる事が出來る。然し手は用ひる事は出來ない。

10 防禦側全チームプレーヤーは對手側のブロッカー(つぶし手)を防ぐ爲に用ひる事が出來る。然し乍ら拳固或は平手にても對手を打つが如き亂暴は許されない。

11 フォアウォード・パス(前投)は一プレイ間に一度だ

けしか許るされない。そのパスをなすべきプレーヤーは必ずスクラム・ラインの後方五ヤードの地點に離なれなければならぬ。

スクラム・ラインのエンド・プレーヤー及バックフィールドに位置する各プレーヤーはそのパスを捕受する事を得る。

防禦チーム側の全プレーヤーはそのパスされたボールをインターセプトする事を得る。フォアウォードパス、プレイに於いてはスクラム・ラインを越えて兩チームは防害も出來なければつぶす（ブロック）事も出來ない。若し防禦チーム側がそのパスを受けんとするプレーヤーを防害した場合（そのボールをのみ處理せんとする場合を除いて）そのパスは防害された場所にて完了されたものとする樣ルールされてゐる。攻撃側チームの一プレーヤーが若し防禦側チームのプレーヤーをインターフィヤせる時、その罰則は一ダウン（One down）及び十五ヤードのロス（罰失）となる。

12　レーテラル、パス或はバックパスは一プレイの內に何時でも爲し得、又幾回にても行ふ事を得る。

13　ファムブルド・ボール（落球）は攻撃チーム側にては常にそれをリカバーする事が出來るし、又そのボールをアドバンス（進める）する事も出來る。防禦チーム側にては若しそのボールがグランドに落ちてからリカバーした場合にはその球をアドバンスする事は出來ない。卽ちリカバーは爲し得るも、アドバンスはなし得ない。

14　スコアリング（得點）

タッチ・ダウン（TOUCH DOWN）……六點

サクセスフル・トライ・フオア・ポイント（Successful try for Point）……一點

ゴール・フラーム・ザ・フィルド（Goal from the field）……三點

セーフテイ（Safety, by opponents）……二點

タッチ・ダウンはゲームの主要得點である。それはボールが對手側ゴールラインに持ち越された事により又對手側のエンドゾーンに完投されたフォアウォードパスによりタッチされ得る處のものである。タッチダウンは又對手側のゴールラインの上、或はエンドゾンに於いてボールがリカバリングされた場合にも得點される。

一タッチ・ダウンを得たチームは何處の地點からでも、又はその二ヤードライン外の何處の地點からでもスクラムによつて出たボールをプレイに移して點を加へる事が出來得る。

そのプレイは次の如きものでその成功したる場合にのみ三點を加へる事が出來るのである。

1.　フィルドよりゴールに球蹴り入ることを得た場合

2.　ゴールラインを越えてボールを持ち込み得たる場合

3. 對手側エンドゾーンにフォアウォードパスが極つた場合セーフティは一口にて說明するはやゝ困難であるが、ラグビーに於けるタッチ、五ヤードスクラムの場合に似てゐる。この場合には對手側に二點の得點を與へる。

卽ち、一チームの保有（權利ある又は攻撃チームの球）にあるボールが、そのチーム側のゴールライン後方、ライン上、ラインを越えて、そのゴールを防禦せるチームから來たボールを處理し得る範圍内にありて、尙、之をデッド（ノープレイの意、球の權利を失する意）と宣告せられた場合、これをセーフティと稱し、對手側チームに二點の得點をされる。

キック、オフでゴールしても得點とはならぬ。スクラムより或はフェア、キック（好蹴）により得たる、フリーキックによりて爲されたフィールド内のプレースキック、又はドロップキックにより成功したるフィールドキックは得點となる。

プレーヤーに對するペナルチー（罰則）或はチームがファウルをなした場合その爲されたファウルに從ひ次の如き罰則を受く。

罰　則

1. 一ダウン罰失　Loss of a down
2. 五ヤード罰失　Loss of five yards
3. 十五ヤード罰失　Loss of fifteen yards
4. 二十五ヤード罰失　Loss of twentyfive yards
5. ゴールに至るハーフヂスタンス罰失
Loss of half the distance to the Goal
6. ボール保有權罰失　Loss of the ball
7. 出場權罰失　Suspension
8. 一時退場　Disqualification

ゲームに對する役員は次の如し

(1)レフェリー　(2)アムパイア　(3)ヘッドラインズマン（主線審）　(4)フィルドヂャッヂ。

役員法規より摘出したるフットボール、コードには次の事が言はれてゐる。

卽ちプレイに於いても又傳統に於いてもフットボールは明らかにアカデミックゲームである。卽ち學生のゲームである。

其のゲームを戰ふ仲間は其の所屬する學校の古き傳統、そのプレイに於けるスポーツマンシップの最高水準を常に支持保存すべく、その學校を代表し、その名譽の爲めに從はねばならぬ。

ホールデング（HOLDING）（タックル、ブロッキングと異なり對手プレーヤーをつかまへて離さない樣な事を云ふ）はルールによりフットボール競技に屬すべきものに非ずとし

て禁じられてゐる。不正なプレイなるが故にであり、又その技術を損ふが故にである。最も足の遅い人でも若し彼のチーム、メーツが對手チームを長くホールデングすれば各プレイ毎に四十ヤードを進むは容易である。ゲームは對手ゲームをホールデングすることなしに素直に投術的に、素晴らしきスピードをもつてボールを進める事により最も秀ぐれたものとなるのである。

サイドライン、コーチング（SIDELINE Coaching）

サイドラインよりのコーチングはルールにより禁じられてゐる。それはアンフェアなプラクチスと見られるが故にである。

ゲームはプレヤーのみが彼等の體力と頭腦をもちひて戰ふべき故にである。

ビーチング・ザ・ボール（Beating the Boal）

プレイを始める時不正なる暗合により對手のボールのプレイに移らぬ前にプレイする事は許されない。ボールがプレイに移されるや否や正直なるサインによりプレイに移つてグッドフツトボールとされてゐる。

對手側チームに話しかける事（ゲーム中）

對手側チームのプレーヤーにゲーム中話しかける事は、それが侮辱的言動でないかぎり別にルールには禁じられて居らぬ。

然しこれも他のスポーツと同様グッドスポーツマンは彼の對手に安つぽい言辭は使用せぬものである。

役員に對し話しかける事（ゲーム中）

役員がデシジョンを與へた時には如何なる時でも彼は彼の見し事をもつてその義務を遂行してゐるのであるから、たとへ間違つたにしてもそれに服すべきである。若し役員に言ひ入れる事ある場合には必ずキヤツプテンをもつて言はしむる事他のプレーヤーは靜粛に、ゲームを續行すべきである。

ルールに反せるプレーヤーは不正なるプレイをなすものと見なさるべきである。

三大學チーム選手氏名

東京學生アメリカン・フットボール聯盟

立教大學

部長	小川德治教授
主將	穎川四郎
マネージャー	太田一男
コーチ	G・マーシャル

選手

穎川四郎	相京徹夫
根本春夫	大野宗彌
田中軍雄	井上和雄
馬澤寛	安藤眉男
龜井勇	村松守男
岸高好	岡見直雪
粕井昇	杉山正
須藤浩	藤井一
上田登章	本好三郎
寺崎五郎	川端正一
灰田義直	中川年男
坂根景	池田茂
中山富太郎	森山有三
石澤英雄	岡崎太郎
篠原義行	

明治大學

部長	松本瀧藏教授
主將	吉岡武男
マネージャー	阿部忠男
コーチ	吉岡武男

選手

山田忠男	二階堂貞雄
吉岡武男	阿部武太
仁井豐	山本豐
阿部忠男	黒川廣人
畑稔	畑進
大前保	加藤二郎
花同アンデレ	半田明
唐本智武	杉山時次

早稲田大學

部長	中島太郎教授
主將	竹崎道雄
副將	坂本義人
マネージャー	川原行雄
會計	川島治雄

選手

有賀太郎	藤田一郎
弘中浩一	井上素行
川原行雄	加來芳郎
川島治雄	風間敏雄
窪田武	三上義春
村山達男	永井義人
中川勝克	野中平一
島袋松雄	陶勇治
立川明敏	竹崎道雄
田中清	横野武
藏力義夫	

— OFFICIAL PROGRAM —
プ ロ グ ラ ム

— Versus —
對

ALL TOKYO COLLEGIATE TEAM
(Waseda—Meiji—Rikkyo Players)
全 東 京 學 生 選 抜 チ ー ム
(早稲田—明治—立教)

2:45 P.M.
午後二時四十五分

OPENING CEREMONY
開 會 式

3:00 P.M.
午 後 三 時

KICK OFF
キツク・オフ

音樂プログラム
フロリダ・ボール・ルーム
アル・ユールス編成
—
國際フットボール・
バンド

GAME OFFICIALS
試 合 役 員

REE—LIEUT. ALEXANDER GEORGE
- —アレキサンダー・ジョーヂ大尉
E —MR. J. EARL FOWLER
ア —ゼイ・アール・ファウラー氏
LINESMAN—MR. FRED HAMADA
線 審 —濱田フレッド氏
JUDGE —MR. JOHN ANKENY
・ジヤッヂ —ジョン・アンケニイ氏
ANT LINESMAN—MR. TADAO KAWABE
審 —河邊忠男氏
'ANT LINESMAN—MR. MAURICE L. RUSSELL
審 —モーリス・エル・ラッセル氏

No.	Player's Name	番號 選手氏名	
10.	Tsukahira	塚平	
11.	Karaki	唐木	M
12.	Yokono	横野	W
13.	Yoshioka	吉岡	M
14.	Kurosawa	黒澤	
15.	Yamamoto	山本	M
16.	Kawashima	川島	W
17.	Hata	畑	M
18.	Ando	安藤	R
19.	Nouchi	野中	W
20.	Matsumoto	松本	W
21.	Kurokawa	黒川	M
22.	Takesaki	竹崎	W
23.	Hanaoka	花岡	M
24.	Katoh	加藤	M
25.	Kajitani	梶谷	R (H)
26.	Yamada	山田	M
27.	Inouye	井上	W
28.	Fujita	藤田	W
29.	Kawahara	川原	W
30.	Omaye	大前	M
31.	Ota	太田	R
32.	Egawa	江川	R
33.	Kamei	亀井	R
34.	Nemoto	根本	R

STARTING LINE UPS
ライン・アツプ

okohama Country and Athletic Club
ワイ・シー・エー・シー側

All Tokyo Collegiate
學生選抜軍側

— OFFICIAL PROGRAM —
プ ロ グ ラ ム

YOKOHAMA COUNTRY AND ATHLETIC CLUB
横濱カントリー・アスレチック・クラブ

No. 番號	Player's Name 選手氏名	Position 位置
1.	W. Papendieck (160)	End
2.	E. Down (195)	Tackle
3.	P.H. Lord (155)	End
4.	H.W. Wasson (197)	Center
5.	H.J. Heesch (164)	End
6.	G.D. Chevalerie (188)	Guard
7.	G. Figgess (180)	Tackle
8.	H. Schoene (176)	Tackle
9.	G.C. Merrill (170)	Back
10.	R.P. Ludden (185)	Tackle
11.	F.R. Harris (146)	Back
12.	N. Tipolt (174)	Guard
13.	F. Weissblatt (Captain) (167)	End
14.	A. Morelli (160)	Guard
15.	M.E. Zuber (Vice Captain) (167)	Back
16.	M. Pestalozzi (145)	Guard
17.	J. Crocker (137)	Back
18.	W.L. Tesch (175)	End
19.	F.R. Devin (197)	Backfield
20.	J.F. Harris (153)	Backfield
21.	R.D. Standish (200)	Center

Musical Program
arranged by
Mr. Al Uhles of
Florida Ball Room

20 Piece
International
Foot Ball Band

Versus
對

2:45 P.M.
午後二時四十五分

OPENING CEREMONY
開 會 式

3:00 P.M.
午後三時

KICK OFF
キツク・オフ

GAME OFFICIALS
試 合 役 員

REFEREE—LIEUT. ALEXANDER GEORG
レフェリー —アレキサンダー・ジョーヂ大尉
UMPIRE —MR. J. EARL FOWLER
アムパイア —ゼイ・アール・ファウラー氏
HEAD LINESMAN—MR. FRED HAMADA
主 線 審 —濱田フレッド氏
FIELD JUDGE —MR. JOHN ANKENY
フィルド・ジヤッヂ —ジョン・アンケニイ氏
ASSISTANT LINESMAN—MR. TADAO KA
線 審 —河邊忠男氏
ASSISTANT LINESMAN—MR. MAURICE
線 審 —モーリス・エル・ラッ

STARTING LINE UPS
ライン・アツプ

Yokohama Country and Athletic
ワイ・シー・エー・シー側

All Tokyo Collegiate
學生選抜軍側

whine about it. If there is anything to be said, let your captain do the talking. That's his business. Yours is to keep quiet and play the game.

THE FOOT BALL CODE

You may meet players and even coaches who will tell you that it is all right to hold or otherwise violate the rules if you do not get caught. This is the code that obtains among sneak thieves and pickpockets. The crime in their code is getting caught.

The foot ball code is different. The foot ball player who intentionally violates a rule is guilty of unfair play and unsportsmanlike tactics, and whether or not he escapes being penalized he brings discredit to the good name of the game, which it is his duty as a player to uphold.

The Rules Committee
National Collegiate Athletic Association
of the United States of America

WASEDA AMERICAN FOOTBALL TEAM

Bucho—Prof. Taro Nakajima
Captain—Michio Takezaki
Vice-Captain—Yoshito Sakamoto
Manager—Yukio Kawahara
Treasurer—Haruo Kawashima
Taro Ariga
Ichiro Fujita
Koichi Hironaka
Motoyuki Inoue
Yukio Kawahara
Yoshio Kaku
Haruo Kawashima
Toshio Kazama
Takeshi Kubota
Yoshiharu Mikami
Tatsuo Murayama
Yoshito Nagai
Katsumi Nakagawa
Heiichi Nouchi
Matsuo Shimabukuro
Yuji Suye
Meikyo Tachikawa
Michio Takezaki
Kiyoshi Tanaka
Takeshi Yokono
Yoshio Zoriki

MEIJI AMERICAN FOOTBALL TEAM

Bucho—Prof. Takizo Matsumoto
Coach—Takeo Yoshioka
Manager—Tadao Abe
Captain—Takeo Yoshioka
Tadao Yamada
Saiao Nikaido
Takeo Yoshioka
Takeia Abe
Yutaka Nii
Yutaka Yamamoto
Tadao Abe
Hiroto Kurokawa
Minoru Hata
Susumu Hata
Tamotsu Omaye
Jiro Kato
Andrew Hanaoka
Akira Handa
Chitake Karaki
Tokiji Sugiyama

RIKKYO UNIVERSITY AMERICAN FOOTBALL TEAM

Bucho—Prof. Tokuji Ogawa
Coach—Prof. George Marshall
Manager—Tsuzio Ota
Captain—Shiro Egawa
Tetsuo Aikyo
Haruo Nemoto
Soya Ono
Isao Tanaka
Kazuo Inouye
Hiroshi Kurosawa
Hisao Ando
Isamu Kamei
Morio Muramatsu
Takayoshi Kishi
Naoyuki Okami
Noboru Kashiwai
Tadashi Sugiyama
Hiroshi Sudo
Hajime Fuji
Nobuaki Uyeda
Saburo Motoyoshi
Shoichi Kawabata
Yoshinao Haida
Toshio Nakagawa
Keiichi Sakane
Shigeru Ikeda
Tomitaro Nakayama
Yuzo Moriyama
Hideo Furusawa
Taro Okazaki
Yoshiyuki Shinohara

THE FOOT BALL CODE

Both in play and by tradition foot ball is a distinctively academic game—the game of the schools and the colleges. The friends of the game must accordingly rely on the schools and colleges for the preservation of its past traditions and the maintenance of the high standards of sportsmanship in its play, which are to be expected in a distinctively academic game.

The Rules Committee, in the remodelling of the rules that has gradually taken place, has endeavored to prohibit and suitably penalize all forms of unfair tactics and practises. It has also endeavored, so far as possible, without affecting the integrity of the game itself, to remove special temptations or opportunity for unsportsmanlike play. For the benefit of those who are just beginning to learn the game the Committee has decided to publish in its official book of rules the following suggestions:

HOLDING

Holding is prohibited by the rules because it does not belong in the game of foot ball. It is unfair play. It eliminates skill. The slowest man in the world could make a forty-yard run in every play if the rest of his teammates would hold their opponents long enough. The game is to advance the ball by strategy, skill and speed *without* holding your opponent.

Perhaps a good game could be invented, the object of which would be to advance the ball as far as possible *with* the assistance of holding your opponents, but it would not be foot ball. It would become a team wrestling match and, unless drastic rules, rigidly enforced, prevented it, a free fight. If your coach cannot show you how to gain distance without holding your opponents, get another coach. It is fair to assume that he does not understand the strategy of the game.

SIDE LINE COACHING

Coaching from the side lines is prohibited in the rules because it is considered an unfair practise. The game is to be played by the players using their own muscles and their own brains. If an onlooker, having seen all the hands in a game of cards, undertook to tell one of the players what card to play, the other players would have just cause to object.

The Committee by its ruling has endeavored to prevent as far as practically possible the sending in of substitutes for the mere purpose of giving information as to the following play, which removes the chief incentive for sending in information.

"BEATING THE BALL"

"Beating the ball" by an unfair use of a starting signal is nothing less than deliberately stealing an advantage from the other side. An honest starting signal is good foot ball, but a starting signal which has for its purpose starting the team a fraction of a second before the ball is put in play, in the hope that it will not be detected by the officials, is nothing short of crookedness. It is the same as if a sprinter in a hundred-yard dash had a secret arrangement with the starter to give him a tenth of a second's warning before he fired the pistol.

TALKING TO YOUR OPPONENTS

Talking to your opponents if it falls short of being abusive or insulting is not prohibited by the rules, partly because it ought not to be necessary and partly because no rules can make a gentleman out of a mucker. No good sportsman is ever guilty of cheap talk to his opponents.

TALKING TO OFFICIALS

When an official imposes or makes a decision, he is simply doing his duty as he sees it. He is on the field representing the integrity of the game of foot ball, and his decision, even though he may have made a mistake in judgment, is final and conclusive and should be so accepted. Even if you think the decision is a mistaken one, take your medicine and do not

9. Ordinarily a ball going out of bounds in the field of play belongs to the team whose member last touched it on the field of play.
10. Any ball going out of bounds or is declared dead within ten yards from the sidelines, is always put in play ten yards in from the sidelines.

THE LATERAL AND THE FORWARD PASS

1. THE LATERAL PASS.

The rule for this is unchanged and, in effect, says that any player may pass the ball (while in play) in any direction except towards the opponent's goal, or may catch such a pass or recover the ball in case it is muffed, fumbled or strikes the ground. The player may then run with it, pass it backwards, or kick it. However, following a backward pass or fumble by the team in possession, the ball is recovered by the opponent after it strikes the ground and is dead at the point of recovery.

2. THE FORWARD PASS.

The team which puts the ball in play may make only one forward pass during each scrimmage. The passer must be at least five yards behind the line of scrimmage. To complete such a pass legally, the ball must be caught by a player of the passing team who was on the end of the line or at least one yard behind the line when the ball was snapped.

Any opponent may intercept and run with the ball unless it has been touched by an ineligible receiver or strikes the ground, in which case the pass is incomplete and the ball is dead. There must be no interference beyond the line of scrimmage with any player eligible to catch or intercept the pass.

Only the eligible receiver of the passer's team who first touches the ball may recover it. If one eligible receiver of the passer's team recovers or touches the ball and is then caught by another eligible receiver of the same team, the pass is incomplete. If the ball touches an ineligible man of the passer's team at any time before being touched by an opponent, the ball goes to the opponents at the spot of the preceeding down. If the ball is touched by an ineligible receiver within the 10-yard line, the offended team shall have the option of selecting a touch-back or taking the ball at the spot of the preceeding down.

There is a penalty of 15-yards for a forward pass by a team which did not put the ball into play from scrimmage.

When a player of the team in possession of the ball makes a forward pass which becomes incomplete behind his own goal line, a safety shall be declared.

Any player who has gone out of bounds is ineligible to catch a forward pass.

A team is no longer penalized five yards for a second incomplete pass in any series of downs. They are also allowed one incomplete pass in the End Zone. If the second incomplete pass or a pass on fourth down becomes incomplete in the End Zone, it is a touch-back.

For interference by the offensive team in the end zone, the offended team may elect a touch-back. If there is interference by the team which did not make the pass behind its goal line, the ball goes to the passing team on the one-yard line, first down.

VALUE OF SCORES

The game shall be decided by the final score at the end of the four periods. The following shall be the value of plays in scoring:

Touchdown	6 points
Successful try-for-point	1 point
Goal from the field	3 points
Safety by opponents	2 points

The score of a forfeited game shall be 1 to 0 in favor of the offended team.

PRINCIPAL CHANGES IN AMERICAN FOOT BALL RULES

by

George H. Marshall, Head Coach
All Tokyo Collegiate Team

The American Thanksgiving Day, November 29, 1934, will mark the introduction of American Foot Ball into Japan. A large number of both the Japanese and foreign residents of Tokyo and Yokohama have been looking forward with keen interest to this initial game. However, many foot ball enthusiasts and "old-timers" of varsity squads in years gone by will observe many new rules and regulations in the game, as it will be played here this year. In the last few years, each season has brought forth numerous revisions in the rules, which are effectively insuring the safety of the players in this great American college game.

A few of the major changes in the Rules, during the last few years, are:

1. The Goal posts have been moved back ten yards from the Goal line.
2. The flying block and the flying tackle have been eliminated. These were ruled out primarily to protect the tackler and the blocker. The penalty is five yards, whether contact is made or not.
3. For all unnecessary roughness such as the following.
   (a) tackling out of bounds,
   (b) running into or roughing the kicker after the ball has been kicked,
   (c) piling on the runner after the ball is dead,
   (d) roughing the passer after the pass has been made,
   (e) roughing any player who is obviously out of the play,
   (f) striking by the defensive linesmen any player on the offensive line above the shoulders with the hands. (The defensive linesmen may use the hands on the opposing blocker's head and neck, to ward off the blocker but he cannot strike on the head with the open hand, the heel of the hand, or the closed fist.) There are three penalties for illegal use of the hands by the defense.
      1. Ordinary foul, such as holding, five yards penalty.
      2. For striking the opponent on the head or neck with open hand or for any unnecessary roughness, fifteen yards penalty.
      3. For striking the opponent with the heel of the hand or with closed first, disqualification and penalty of half the distance to the goal.
4. The kicking team even though legally recovering the ball, under no circumstances can advance the ball.
5. Last year on any forward pass that was incomplete in the end zone, automatically became a touch-back. This year the first such pass in any series of downs except on fourth down, is penalized as though it occurred in the field of play. Any subsequent pass or any pass on the fourth down to become incomplete over the goal is a touch-back.
6. On the try for point after touchdown, the ball is put in play by scrimmage on the two-yard line. The team making the touchdown may either drop-kick, place-kick, complete a pass in the end zone, or carry the ball over the goal line for the extra point.
7. In all shift or huddle plays all players of the team in possession of the ball must come to an absolute stop, without movement of feet or swaying of the body for a period of at least one second before the ball is put in play. Penalty for failing to stop is fifteen yards.
8. When any part of the ball carrier's person, except his feet and hands, touches the ground, the ball is dead. Penalty for attempting to advance the ball, after the ball, is dead, is five yeards.

Patrons and Patronesses

Mr. and Mrs. G. S. Phelps
The Afgan Minister. H. E., the Hon. Habibullah Khan Tarzi.
Miss Lillian Gardiner
Miss Ernestine Gardiner
Captain Truman Martin
Mr. and Mrs. Donald Smith
Mr. C. A. Hutchinson
Mr. Morris L. Hughes
Mr. and Mrs. Fred Miller
Dr. Ichiro Itoi
Dr. and Mrs. Herbert H. Howiss
Dr. Takeo Inouye
Mr. Frank Williams
Mr. and Mrs. D. M. Forsyth
Mr. D. T. Weed
Mr. J. M. Conway
Mr. Gordon Jorgensen
Mrs. George Gilman
Mr. Frans J. Weissblatt
Mr. and Mrs. Russel L. Durgin
Mr. C. K. Caswell
Mr. Keizo Isono
Mr. Takanaga Mitsui
The Canadian Secretary and Mrs. Keenleyside
Mr. Harvey P. Sommerer
Mr. and Mrs. Henry J. Heesch
Mr. Charles Cooper
Dr. and Mrs. John P. Hubbard
Lieut. F. P. Munson
Mr. and Mrs. Burton Crane
Lieut. and Mrs. Alexander George
Lieut. and Mrs. Merritt Booth
Lieut. G. Chevalerie
Mrs. F. C. Thompson
Mr. and Mrs. S. Swartz
Mr. and Mrs. Fred Thomas
Mr. and Mrs. D Douglas MacGregor
Mr. Douglas Osborn
Mr. O. R. Grimmesey
Mr. Kanichiro Matsumoto
The Rev. Frank H. Moss, jr.
Mr. Fred Spangler
Mr. Jose M. San Martin
The British Secretary and Mrs. Crowe
Mr. Kichisaburo Kodaka
Mr. Taminosaku Kurosawa
Mr. Keizaburo Kojima
Mr. Tadao Ichioka
Mr. Kenzo Hirose
Mr. Masafuku Shirai
Mr. Kohei Watanabe
Mr. Masatsune Miyamoto
Mr. Jun Seto
Mr. G. N. Coe
Captain and Mrs. M. W. Pettigrew
Major and Mrs. W. C. Crane
Mrs. James H. Course
Mr. I. Taguchi
Viscount and Viscountess Fujinami
Mr. Naonosuke Kawa'kami
Mr. and Mrs. William Bradford Smith

Patrons and Patronesses

Mr. L. M. Faus.
Mr. F. F. Eca da Silva
Mr. W. L. Tesch
Mr. and Mrs. Chokuro Kadono
Mr. M. Mendelson
Mr. and Mrs. J. C. Goold
Mr. and Mrs. Wilfred Fleisher
Mr. I. Y. Stauffer
Mr. Claude Ettele
The Norwegian Minister, H.E., the Hon. Ludwig Aubert
Mr. and Mrs. William George Hiiien
Mr. J. V. Starrett
Mr. and Mrs. James A. Rabitt
Mr. W. W. Glass
Mr. and Mrs. George M. Marshall
Mr. Tomotake Teshima
Mr. Connie Mack
Mr. and Mrs. Lester H. White
Mr. E. A. Pearsall
Mr. and Mrs. H. G. Stemshorn
Mr. and Mrs. Walter Stemshorn
Mr. and Mrs. P. H. Kipp
Mr. and Mrs. James Earl Fowler
The Rev. Prof. and Mrs. Lawrence Rose
Mr. and Mrs. Robert F. Moss
Mr. and Mrs. J. Delano Hitch, Jr.
Mr. Bryan Hunt
Mr. Mark Owens
Mr. and Mrs S. J. Tease
Mr. H. B. Street
Mr. E. Lawton
Mr. and Mrs. David Tait
Mr. and Mrs. John Ankeny
Mr. George Grandy
Mr. W. C. Asen
Mr. John Laffin
Mr. William Laffin
Mr. and Mrs. H. S. Cooke
Mr. and Mrs. H. Merritt
Miss. E. C. Moss
Mr. and Mrs. R. B. DeMallie
Mr. and Mrs. J. P. Robinson
Mr. W. Kirk Fowler
Mr. and Mrs. Newton Edgars
Mr. Frank O'Doul
Mr. Harry L. Sommerer
The Chinese Minister, H. E., General Tsiang Tso Ping
Dr. Hirotoshi Hashimoto
Dr. Sobei Ide
Dr. S. M. Okazaki
Dr. I. Katayama
Mr. Roger W. Burman
The American Counsellor and Mrs. Neville

FIRST ANNUAL THANKSGIVING DAY GAME

and

THE INTRODUCTION OF AMERICAN COLLEGE FOOT BALL INTO JAPAN

has been made possible by the following

Ladies and Gentlemen

as

PATRON—FOUNDERS

The Tokyo Inter-collegiate American Foot Ball League has invited the following distinguished persons to occupy the Stadium Box as chief Patrons and Patronesses of the Thanksgiving Game.

H. E., The American Ambassador and Mrs. Grew

H. E., Prince Iyesato Tokugawa, President of the American-Japan Society

Mr. John L. Curtis, President of the Tokyo American Association and Mrs. Curtis

Dr. Hoszumi Tanaka, President of Waseda University

Mr V. A. Gulick, President of the Yokohama American Association and Mrs. Gulick

Dr. Somei Uzawa, President of Meiji University

Mr. John Reifsnider, President of the American Club of Tokyo and Mrs. Reifsnider

Dr. Shigeharu Kimura, Director of St. Paul's University

Mr. C. Heseltine, President of the Yokohama Country and Athletic Club and Mrs. Heseltine.

Patrons and Patronesses

Mr. and Mrs. D. H. Blake, Jr.
Miss. Christine M. Nuno
Mr. S. Isaacs
Mr. and Mrs. Gregor C. Merrill
Mr. John W. Rust
Mr and Mrs. J. M. Allison
The American Consul General and Mrs. Garrels
Mr. and Mrs. S. Lee Dance
Mr. j. Graham Parsons
Mr. and Mrs. R. W. Andrews
Miss Tonie Wong
Mr. H. B. Mackenzie
Mr. and Mrs. Earl R. Smith
Mr. B. W. Fleisher
Mr. Takashi Komatsu
Mr. and Mrs. Tom. D. Cochrane
Mr. and Mrs. Glenn Babb
Mr. Alfred R. Child
Mr. Yukichi Iwanaga
Mr. and Mrs. James Russel Young

TOKYO INTER-COLLEGIATE AMERICAN FOOT BALL LEAGUE

at present composed of member teams

representing

WASEDA UNIVERSITY

MEIJI UNIVERSITY

ST. PAUL'S (RIKKYO) UNIVERSITY

Founded on October 28, 1934

For the purpose of introducing the American College game of Foot Ball to Japan and to begin playing a regular autum series of games under the Official Foot Ball Rules of the National Collegiate Athletic Association of the United States of America. The only definite rule of the new League decided is that the season of the new League will consist of the months of October, November and [illegible]

THE ORGANIZING EXECUTIVE COMMITTEE IS COMPOSED OF

Chairman, Professor Paul Rusch of St. Paul's
Professor Takizo Matsumoto of Waseda
Professor George H. Marshall of St. Paul's
Professor Taro Nakajima of Waseda
Mr. Michio Takesaki of Waseda University
Mr. Ichiro Fujita of Waseda University
Mr. Motoyoshi Inouye of Waseda University
Mr. Takeo Yoshioka of Meiji University
Mr. Tadao Yamada of Meiji University
Mr. Akira Oshida of Meiji University
Mr. Shiro Egawa of St Paul's University
Mr. Tsugio Ota of St. Paul's University
Mr. Tetsuo Akiyo of St. Paul's University

TEMPORARY OFFICE OF THE LEAGUE

No. 5, Rikkyo Daigaku, Ikebukuro, Tokyo

Official Program

FIRST ANNUAL THANKSGIVING DAY CLASSIC AMERICAN FOOT BALL GAME

under the auspices of

THE TOKYO INTER-COLLEGIATE AMERICAN FOOT BALL LEAGUE

YOKOHAMA COUNTRY AND ATHLETIC CLUB

— vs —

ALL TOKYO COLLEGIATE TEAM

composed of

Waseda-Meiji-Rikkyo University Players

MEIJI SHRINE FOOTBALL STADIUM

Tokyo

THURSDAY, NOVEMBER 29, 1934